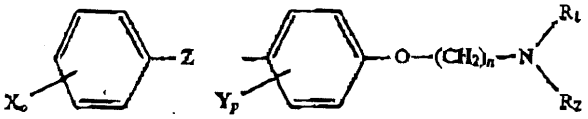
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

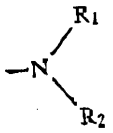
【公表番号】特表2005-512996(P2005-512996A)
【公表日】平成17年5月12日(2005.5.12)
【年通号数】公開・登録公報2005-018
【出願番号】特願2003-541817(P2003-541817)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/138　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/704　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/138
Ａ６１Ｋ　31/704
Ａ６１Ｐ　35/04
Ａ６１Ｐ　43/00　１１１
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１

【手続補正書】
【提出日】平成17年11月7日(2005.11.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
活動型転移性乳癌のヒト患者の延命を目的とする治療に適用される薬剤の作製において、該薬剤の有効成分として使用するジフェニル化合物であって、
該ジフェニル化合物は、
少なくとも１種のジフェニル化合物：
【化１】



（式中、ＸおよびＹはそれぞれフッ素、塩素もしくは臭素であり、Ｚは１～３個の炭素原子のアルキレン基もしくは＝Ｃ＝Ｏであるか、またはフェニル基は連結されて３環式の環を形成し、ｏおよびｐは０もしくは１であり、R_1およびR_2はそれぞれ１～３個の炭素原子を含有する基であるか、または連結されて含窒素複素環を形成し、ｎは１、２もしくは３である）、ジフェニル化合物またはその塩酸塩あり、
（ａ）最初に少なくとも一種の前記ジフェニル化合物を前記患者に投与する、
（ｂ）細胞内ヒスタミンの結合を阻害するのに十分な時間が経過した後に、引き続き乳癌に有効な化学療法剤を前記患者に投与する
ことを特徴とするジフェニル化合物の使用方法。
【請求項２】
前記ジフェニル化合物は、次式の基が、

【化２】

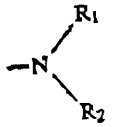


ジエチルアミノ基、ジメチルアミノ基、モルホリノ基またはピペラジノ基であり、またはこれらの塩酸塩である前記ジフェニル化合物の少なくとも１種を有効成分とすることを特徴とする請求項１に記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項３】

前記ジフェニル化合物は、次式の基が、

【化３】



がジエチルアミノ基であり、ＺがＣＨ$_2$であり、ｎが２であり、ｏおよびｐがそれぞれ０であり、またはそれらの塩酸塩である前記ジフェニル化合物の少なくとも１種を有効成分とすることを特徴とする請求項２に記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項４】

前記の乳癌に有効な化学療法剤がドキソルビシンまたはエピルビシンであることを特徴とする請求項１～３の何れか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項５】

前記ジフェニル化合物の患者に対する投与を、前記化学療法剤を投与する３０～９０分前に開始することを特徴とする請求項１－４のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項６】

前記ジフェニル化合物を、前記化学療法剤を投与する前に最高９０分にわたりその溶液を静脈内注入することによって投与され、前記化学療法剤の投与の間ずっと継続されることを特徴とする請求項１－５のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項７】

前記ジフェニル化合物が、前記化学療法剤を投与する前に６０分間投与され、前記化学療法剤の２０分間の静脈内注入の間ずっと継続されることを特徴とする請求項１－６のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項８】

前記ジフェニル化合物を、８－２４０ｍｇ／Ｍ^{2}患者の量で投与することを特徴とする請求項１－７の何れかに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項９】

前記ジフェニル化合物の投与量が体重１ｋｇあたり３－１０ｍｇであることを特徴とする請求項１－８の何れか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項１０】

前記ジフェニル化合物の投与量が、塩酸塩の形態で６ｍｇ／ｋｇ、または遊離塩基の形態で５．３ｍｇ／ｋｇの量であることを特徴とする請求項１－９の何れか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項１１】

前記化学療法剤が５０～７５ｍｇ／Ｍ^{2}患者の量で投与されることを特徴とする請求項１－１１の何れかに記載のジフェニル化合物使用方法。

【請求項１２】

活動型乳癌に罹患している前記患者が、エストロゲン受容体陰性腫瘍を有する患者であることを特徴とする請求項１－１１のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。

【請求項１３】
活動型乳癌に罹患している前記患者が、診断から転移性再発までの無再発期間が３６カ月未満の患者であることを特徴とする請求項１－１２のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。
【請求項１４】
活動型乳癌に罹患している前記患者の治療を所定の間隔でステップ（ａ）及び（ｂ）少なくとも４サイクル行うことを特徴とする請求項１－１３のいずれか一つに記載のジフェニル化合物の使用方法。
【請求項１５】
前記患者が化学療法を受けていないかまたは前に治療を受けていない者から選ばれることを特徴とする請求項１－１４記載のジフェニル化合物の使用方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
の基はジエチルアミノ基であるが、ジメチルアミノなど他のアルキルアミノ基を使用することもでき、他の好ましい実施形態においては、モルホリノ基であるが、ピペラジノなど他の複素環式基を使用することもできる。Ｚがアルキレン基であるときにはｏおよびｐは通常０であり、ｏは２でもよい。特に好ましい一実施形態においては、ＺはCH_2（ｎは２である）であり、ｏおよびｐはそれぞれ０であり、
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】
ベンゼン環を連結するアルキレン基に加えて、＝Ｃ＝Ｏなどの他の連結基を使用することもできる。ハロゲン原子に加えて、例えば、イミダゾール基など他の置換基をベンゼン環上に置くこともできる。